

プレス発表資料

平成25年12月18日
独立行政法人 防災科学技術研究所

北海道中標津町吹雪発生予測システム試験運用を開始

独立行政法人防災科学技術研究所(理事長：岡田義光)は、文部科学省 地域防災対策支援研究プロジェクト「北海道中標津町を対象とした吹雪発生予測システム活用と効果的な雪氷防災対策への支援」の一環として、北海道中標津町の吹雪発生予測システム試験運用を平成25年12月20日に開始します。それに伴い、同日に中標津町役場301会議室で開催される北海道主催の暴風雪対応訓練の終了時(12時30分頃予定)に当システムの説明を行います。

中標津町では平成25年3月2日から3日にかけての暴風雪災害によって5名の方が亡くなりました。当日は、発達した低気圧の影響で急激に天候が悪化し、著しく発達した吹雪による視界不良と道路への吹きだまりにより車の通行が不能となり、甚大な被害をもたらしました。このような吹雪災害を防止するため、当研究所が開発した面的な吹雪発生予測システムの試験運用を行い、中標津町において効果的な雪氷防災対策のための手法を開発します。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会
新庄新聞放送記者会、新潟県政記者会、新潟新県政記者会
北海道庁道政記者クラブ

【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所
雪氷防災研究センター
新庄雪氷環境実験所
根本 征樹
中村 一樹
電話：0233-22-7550
FAX：0233-22-7554
雪氷防災研究センター
センター長
上石 勲
電話：0258-35-7520
FAX：0258-35-0020

【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所
社会防災システム研究領域
アウトリーチ・国際研究推進センター
アウトリーチグループ
三好・大石
電話：029-863-7768
FAX：029-851-1622

防災科研雪氷防災研究センターは、北海道中標津町を対象として、吹雪発生予測システム試験運用と効果的な雪氷防災対策への支援を行います。中標津町では、平成25年3月2日から3日にかけての暴風雪災害によって5名の方が亡くなりました。当日は、発達した低気圧の影響で急激に天候が悪化し、著しく発達した吹雪による視界不良と道路への吹きだまりにより、車の通行が不能になりました。

このような、これまでに経験の無い規模の災害を今後防ぎ、安心安全な冬期の生活を確保することは、中標津町やその周辺の地域にとって大きな課題であり、これらの解決のために、本プロジェクトを実施することといたしました。

本プロジェクトにおいては、研究成果の創出だけでなく、得られた成果を有効かつ直接的に地域防災対策に適用することも目的としています。そのため、防災研究に関する専門的な知見を持つ者、地方自治体等の防災対策担当者、地元企業の防災担当者等、研究成果を当該地域で活用するため、様々な分野から構成される運営委員会を組織し、研究成果を活用した防災・減災対策を検討します(図1参照)。

提供する吹雪予測データは、運営委員会のメンバーに限定して試験的に提供し、有効に活用できる情報となるように意見を参考としながら完成度を高めます。予測項目は、1時間ごとの視程、風速、降雪量、気温、吹雪量で、1日2回(4時、16時)、29時間先まで提供します。格子間隔は当初5kmですが、委員の意見を参考とし1.5~2km格子への高解像度化を検討します(図2参照)。ライブカメラの映像や気象観測データも含めこちらの情報は、ホームページで一般に公開する予定です(図3参照)。

また、町民から提供される情報も有効に活用しながら雪氷防災に関する防災教育、啓発活動も併せて行います。

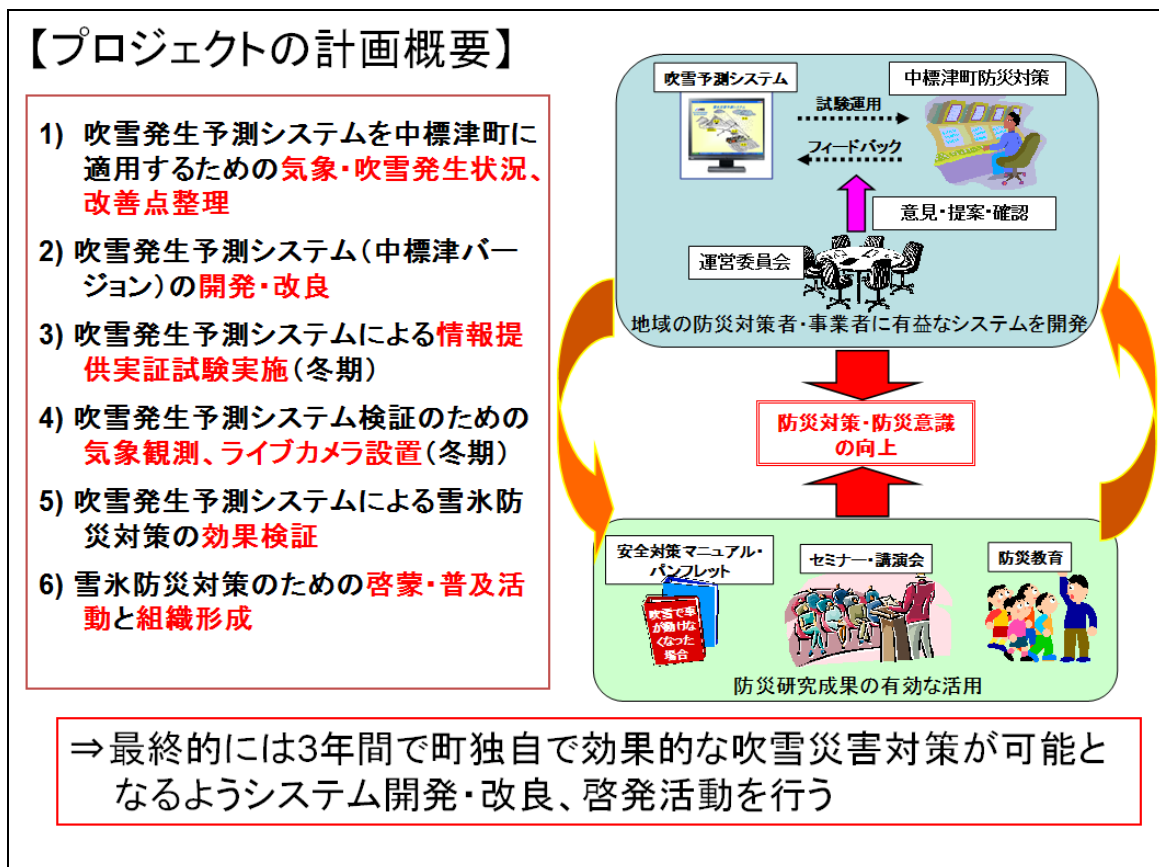


図1 「北海道中標津町を対象とした吹雪発生予測システム活用と効果的な雪氷防災対策への支援」概要

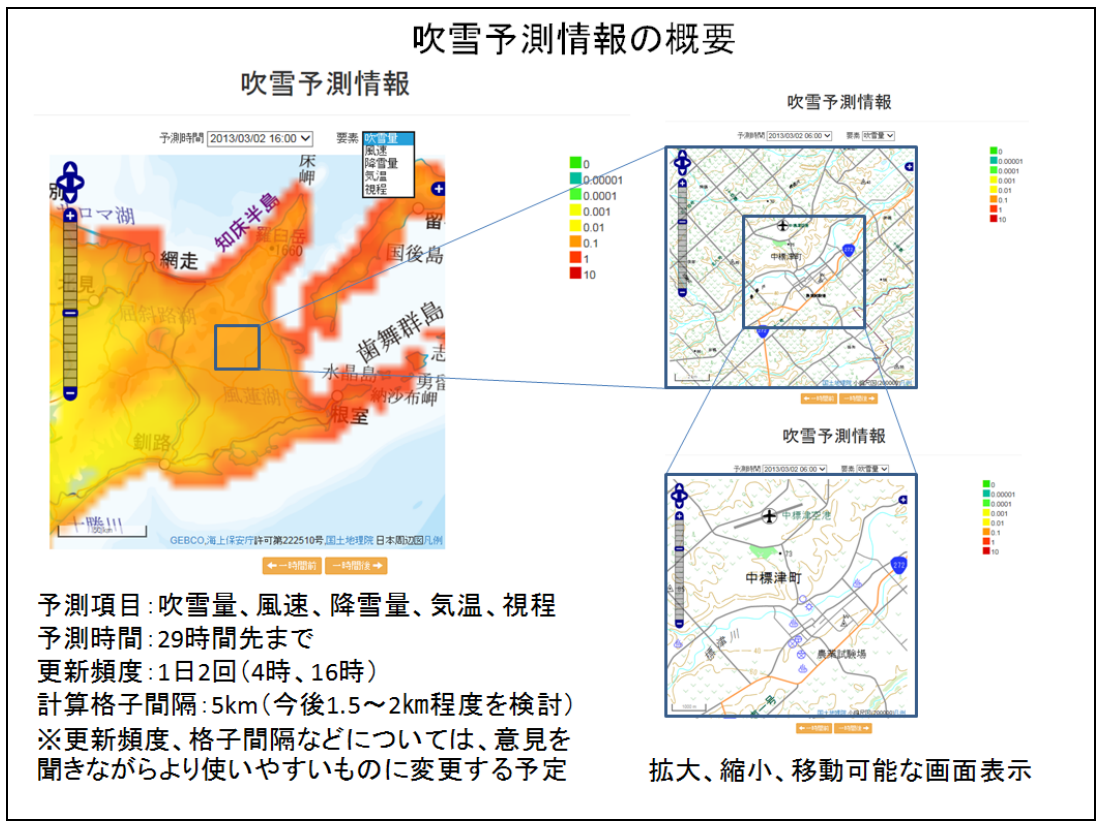


図2 提供する吹雪予測情報の概要

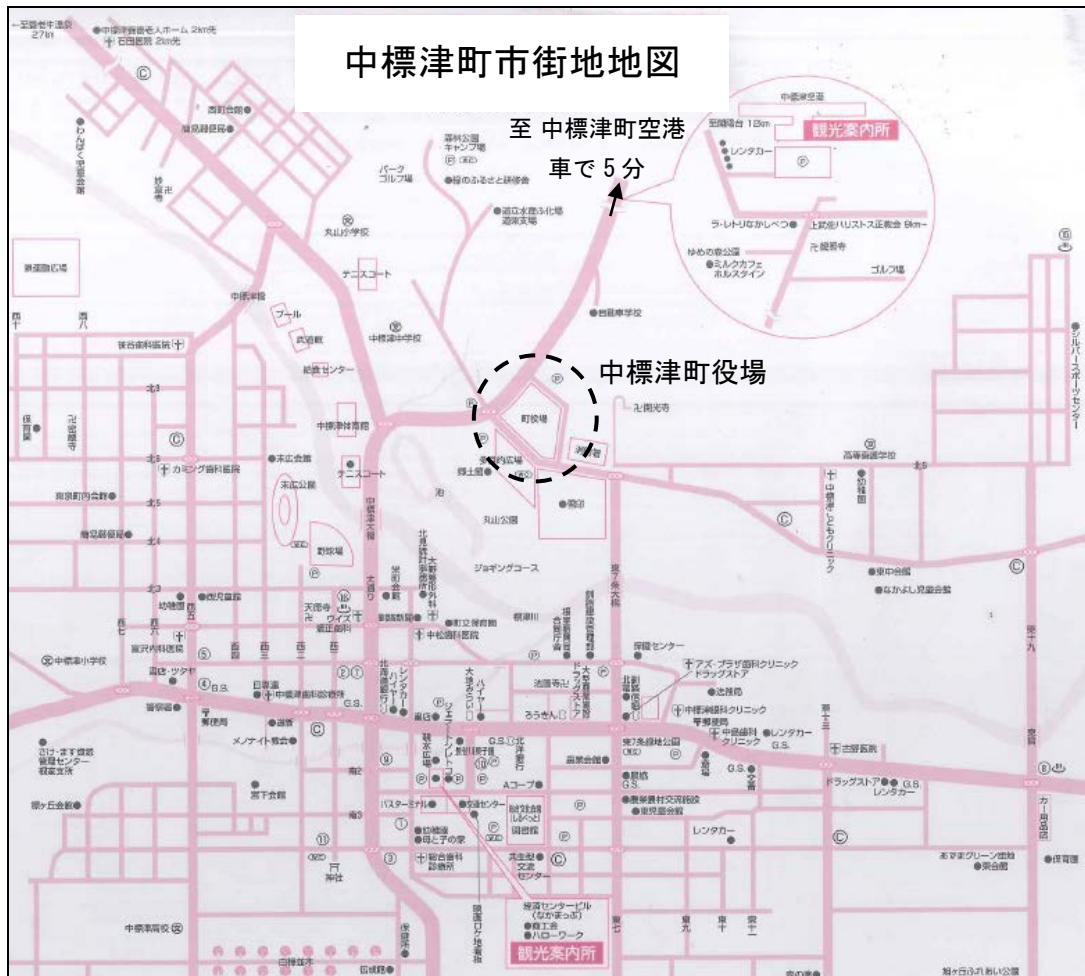


図3 提供するライブカメラ、気象観測情報の概要

北海道中標津町吹雪発生予測システム試験運用説明会

独立行政法人 防災科学技術研究所

1. 日時 平成 25 年 12 月 20 日（金）12 時 30 分～13 時 00 分
（同日 9 時から実施されている北海道主催暴風雪対応訓練終了後に行います。）
2. 場所 中標津町役場 301 会議室
〒086-1197 北海道標津郡中標津町丸山 2 丁目 22 番地



3. 取材問い合わせ先
独立行政法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター
新庄雪氷環境実験所
中村 一樹
電話：0233-22-7550
FAX：0233-22-7554